

先進国の金融政策が新興市場国の国際資金フローに与える影響

一橋大学 武田真彦

新興市場国（emerging markets）は、国際金融市場に emerge した必然的結果として、国際資金フローから大きな影響を受けるようになる。特にここ十数年間、先進国における好不況の波とそれに伴う金融政策の大きな変化が、新興市場国経済に様々なショックを与えてきた。

国際通貨基金（IMF）はこの点に着目し、2011-2015 年にかけて Spillover Report を毎年作成・公表し、その後も Spillover Notes を不定期に発行している。また、World Economic Outlook や Global Financial Stability Report においても、世界経済に占めるウエイトの大きい国々の景況や政策が他国に及ぼす影響に関連するトピックを時折取り上げている。しかしこの問題に対する IMF の熱意は、一頃と比べると低下してきているようにも伺われる。

本報告では、国際金融危機以降の先進国金融政策（特に米国の金融政策）の変遷が、国際資金フローを通じて新興市場国に与えてきた影響を概観し、その性格を分析する。それを踏まえて、新興市場国の望ましい政策対応や、IMF に期待されるグローバルなサーベイランスのあり方について論ずる。